

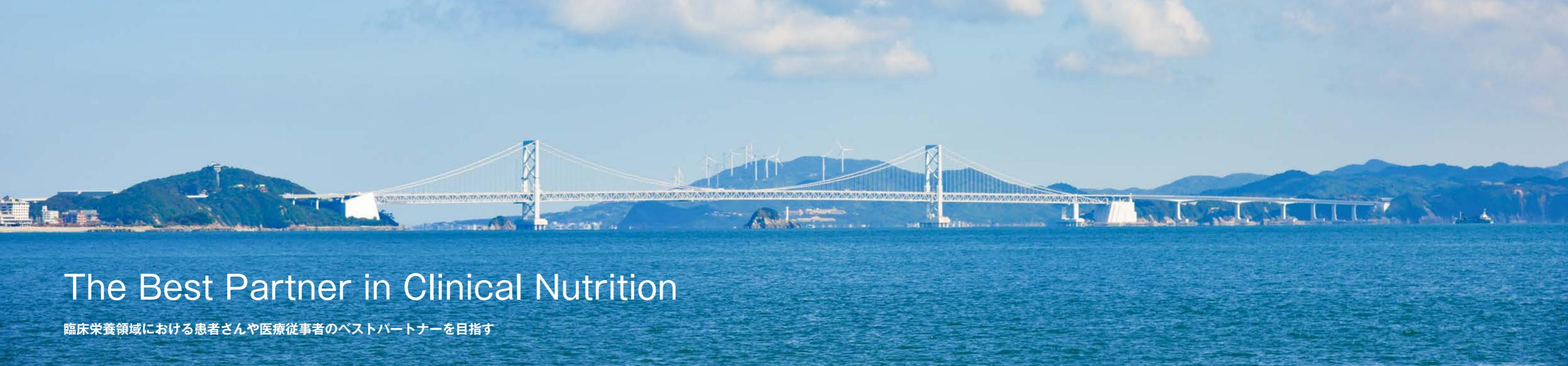


株式会社大塚製薬工場

Company Profile 2024

The Best Partner in Clinical Nutrition





The Best Partner in Clinical Nutrition

臨床栄養領域における患者さんや医療従事者のベストパートナーを目指す

私たちの企業理念と経営ビジョン

大塚グループは、“Otsuka-people creating new products for better health worldwide”という企業理念のもと、革新的で創造性に富んだ医薬品や機能性飲料・食品などの幅広い製品を通じて、世界の人々の健康への貢献を取り組んでいます。その大塚グループのなかで当社は、“The Best Partner in Clinical Nutrition”（臨床栄養領域における患者さんや医療従事者のベストパートナーを目指す）を経営ビジョンとし、患者さんやそのご家族、それを支える医療従事者を含むステークホルダーの皆さまの課題を解決するための製品やサービスといったソリューションの提供を図ることで、世界の人々の健康に貢献していきます。

創業時から受け継ぐ、品質第一の精神

当社は、大塚グループ発祥の会社として、75年以上にわたり輸液事業に取り組み、輸液のリーディングカンパニーとして、日本の輸液開発をけん引してきました。現在は、輸液はもとより、医療現場などの課題解決に貢献す

るさまざまな製品を提供しています。「品質は工場の生命にして包装も亦品質なり買う身になりて造れ賣れ」。品質最優先を唱えた創業者・大塚武三郎のものづくりの精神を胸に、高い使命感を持ち、今後も安全で高品質な製品を、患者さんや医療従事者の皆さんに安定してお届けいたします。

予防から病院医療、リハビリ、そして在宅医療・介護に貢献するソリューションの創出

研究開発においては、臨床栄養領域に加え、手術周辺領域、再生医療領域のアンメットメディカルニーズ（いまだに有効な治療方法がない医療ニーズ）に対応する医薬品や医療機器、デジタルサービス等の開発を進めており、常に患者さんの視点に立った、既成概念にとらわれない革新的な製品開発に取り組んでいます。経口補水液オーエスワンをはじめとするメディカルフーズ[※]分野でも、医療や介護の場で高まるニーズにお応えすべく、積極的に研究開発を進めています。一方、受託事業にも注力し、当社の強みである輸液事業で培った輸液周辺技術を生かした製品の提案

と、高品質で効率的な生産システムの提供を行っています。このように、私たちは、新製品、新技術の開発により、予防から病院医療、リハビリ、そして在宅医療・介護にわたる製品ラインアップときめ細やかな情報伝達を通じて、医療に貢献してまいります。

※ 私たちは、医学的・栄養学的根拠を基に開発した医療の場で役立つ食品を「メディカルフーズ」と呼んでいます。

人々の健康と栄養管理に貢献するソリューションを、世界へ

大塚グループの輸液は日本国内にとどまらず、アジアを中心に展開しています。日本の輸液のリーディングカンパニーである当社は、大塚グループの海外輸液事業会社のマネジメントにも深く携わっています。今後は、基礎輸液のみならず、栄養輸液や経腸栄養剤など、臨床栄養に貢献できる製品展開をグローバルに推進していくと考えています。また、医薬品や医療機器、メディカルフーズを世界の人々にお届けすることにも継続して挑戦していきます。

これからも価値ある企業であり続けるために

創業者である大塚武三郎氏の「流汗悟道」、二代目・大塚正士氏の「実証」、三代目・大塚明彦氏の「創造性」といった教えを継承し、これからも、安全で高品質な製品を安定的にお届けする努力を続け、革新的な製品を開発し供給してまいります。事業活動を通じ世界の人々の健康に寄与するのみならず、地球にやさしい環境経営を一層強化し、国連が推奨する持続可能な開発目標（SDGs）の達成にも貢献する価値ある企業であり続けられるよう、全社一丸となって活動してまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

大塚グループの企业文化



大塚グループが目指す新たな価値創造実現の根幹には、「流汗悟道」「実証」「創造性」という3つの考え方があり、それらは大塚グループ全体に広く浸透し、企業文化の醸成に繋がっています。

代表取締役社長
高木 修一



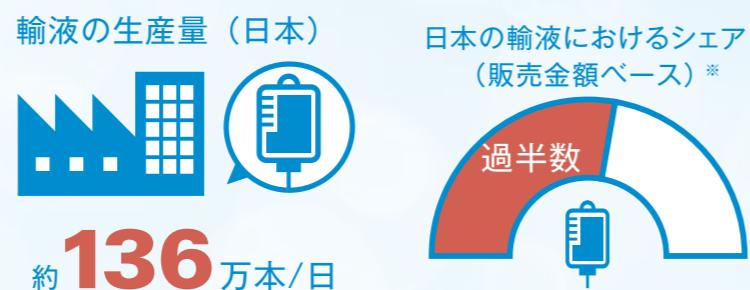
医療に貢献する革新的な製品の創出を目指して

「基礎的医薬品」である輸液のリーディングカンパニーとして

大塚製薬工場の主力製品である輸液とは、いわゆる点滴液のことで、生命を維持するために基礎的かつ重要な医薬品であり、医療にとって必要不可欠な存在です。現在、輸液の国内市場において過半数のシェアを占める^{*}当社は、75年以上にわたり輸液事業に取り組み、輸液のリーディングカンパニーとして、日本の輸液開発をけん引してきました。

輸液は「基礎的医薬品」（臨床上の必要性が高く将来にわたり継続的に製造販売することが求められている医薬品）の一つであり、私たちには基礎的医薬品メーカーとして高い品質の維持と安定供給が求められています。

※出所：自社定義による市場 Copyright©2024 IQVIA.
JPM2023年12月MATをもとに作成 無断転載禁止



患者さんの栄養管理を総合的にサポートする製品群のみならず、新たな領域へ

当社は、輸液製剤や経腸栄養剤などの医療用医薬品に加え、経口補水液や濃厚流動食品などのメディカルフーズも取り扱っており、患者さんの栄養管理を総合的にサポートする製品開発に取り組んでいます。また、手術周辺領域や再生医療領域においても革新的な製品を生み出すべく研究開発を行っています。



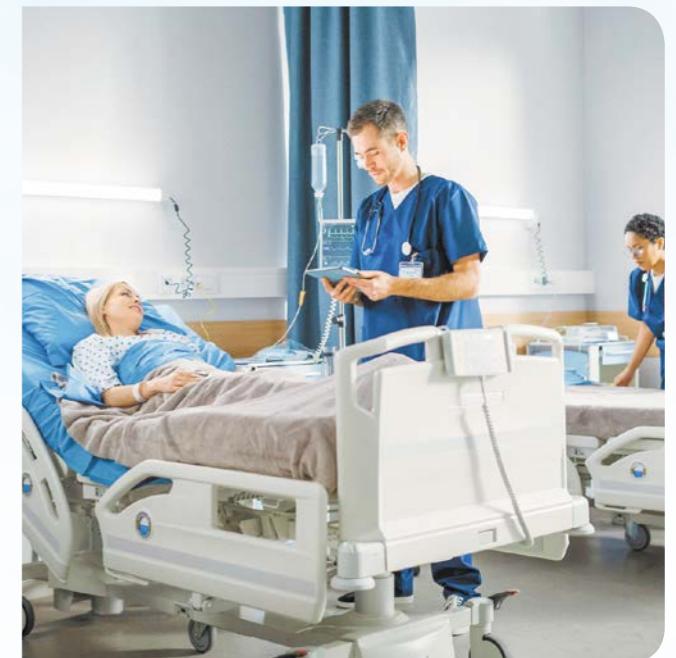
125 種類



医療ニーズを捉え開発・改良した製品を、いち早く患者さんのもとへ

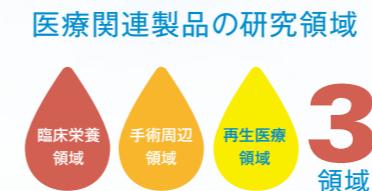
医療の場では、専門知識を持ったMR（医薬情報担当者）が、適切な輸液・栄養療法等の情報提供を医療従事者に行っており、こうした活動を通じ、医療従事者との信頼関係の構築に努める一方、患者さんや医療従事者の声をいち早く研究開発部門や生産部門へフィードバックし、新製品の開発や既存製品の改良に反映させています。

私たちはこれからも、さまざまな声に真摯に耳を傾け、臨床栄養分野のみならず、医療・介護の場に貢献できる革新的な製品の創出を目指して活動していきます。



製品とサービスを組み合わせたソリューション（課題解決）の提供を目指して

さらに、当社は「予防・診断・治療・モニタリング」といったヘルスケアプロセス全体をカバーできるよう事業領域の拡大を進めています。例えば、製品開発だけではなく、デジタル技術を活用した予防・治療等に資するサービスの開発を進めています。製品・サービスを組み合わせた新たな価値創出により、予防から回復に貢献できるようなソリューションを提供できる会社でありたいと考えています。



大塚の海外輸液事業会社



世界に広がる高品質な製品とソリューション

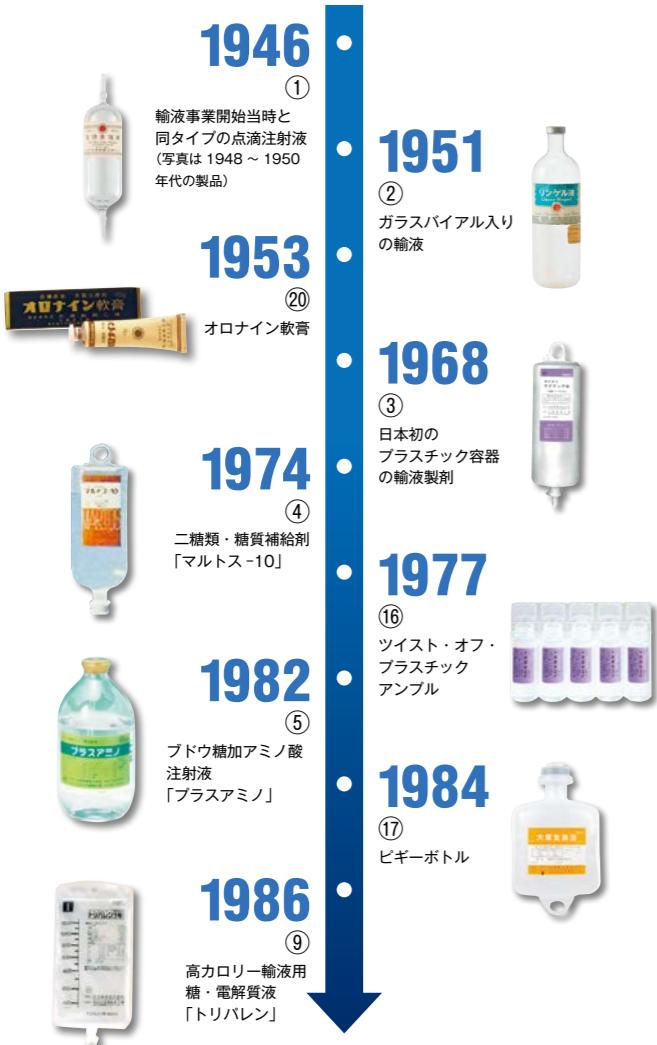
日本の輸液のリーディングカンパニーとして培った当社の高い技術力を生かし、現在、大塚グループでは当社を含め 17 の事業会社で輸液事業を行っています。各国の市場ニーズに合った、より付加価値の高いソリューションの海外展開を図り、現地の医療に貢献していきます。

患者さんに役立つ革新的な製品を創り出すために

医薬品の研究開発には、長い年月とたゆまぬ努力が必要です。徹底した安全性と有効性の検証、そして緻密に有用性を確認する臨床試験など、多くの人々の地道な努力の積み重ねを経て、初めて医薬品は患者さんに届けられます。

こうした研究開発段階においても、私たちは常にエビデンス（科学的根拠）に基づいた研究開発を行い、患者さんの立場から安全性と有効性を追求しています。医療現場を知り、患者さんや医療従事者の声を研究開発に生かすためのコミュニケーションを大事にして、製品開発はもとより容器の改良にも取り組んできました。私たちはこれからも患者さんことを第一に考え、高い倫理観に基づいて研究開発に取り組み、患者さんや医療従事者のニーズを的確に捉えた安全で有効な製品の提供を通じて、人々の健康に貢献し続けます。

研究開発の歩み



※当社子会社の研究開発も含めています。
※製品写真は、原則として発売当時のものを掲載しています。

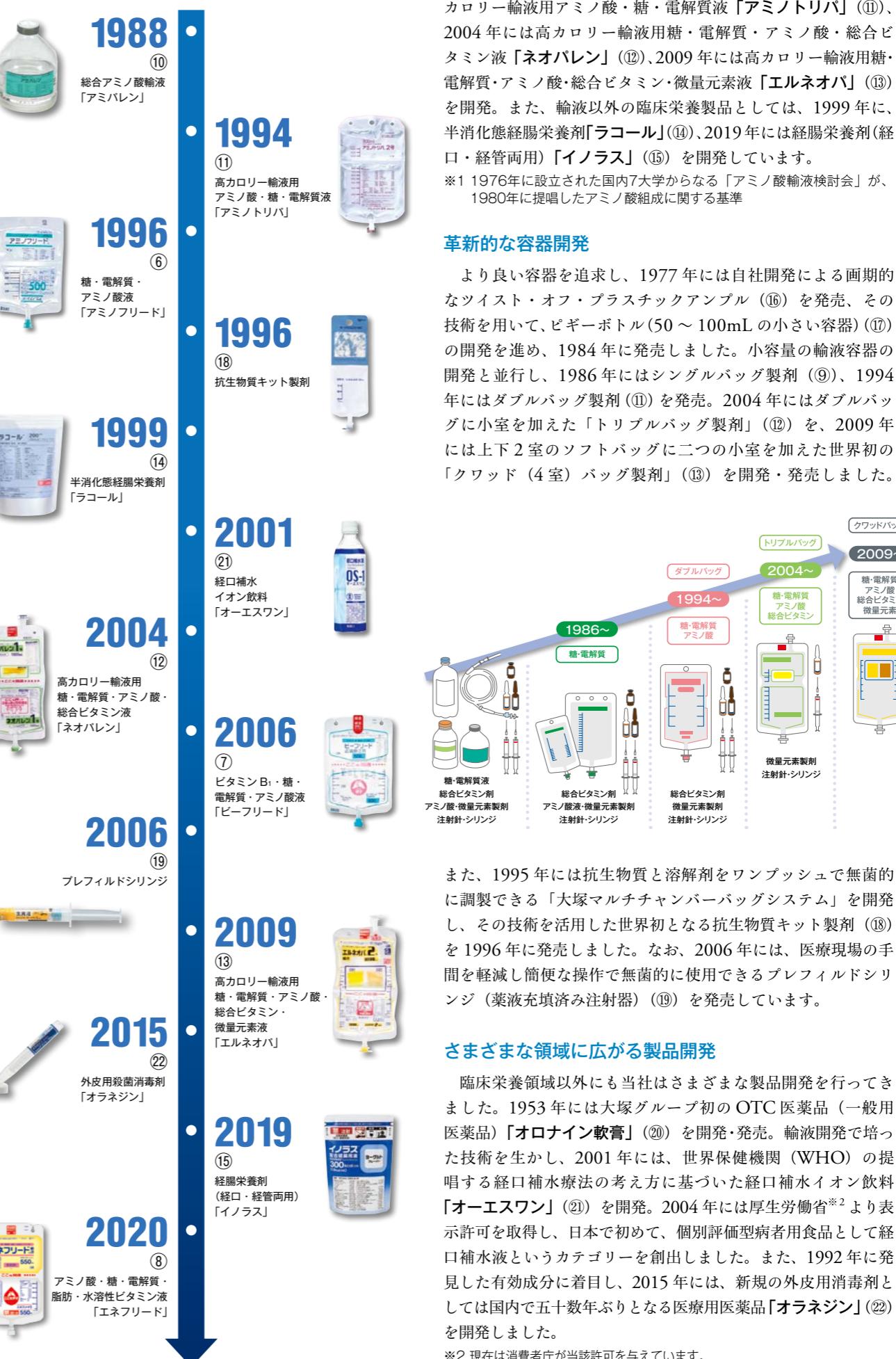
化学原料メーカーから医薬品メーカーへ

1921年に化学原料メーカーとして創業した当社は、1946年に点滴注射液の製造販売を開始し(①)、医薬品分野に参入、1951年にはガラスバイアル入りの輸液(②)を発売しました。その後、輸液の需要拡大に伴い、さまざまな輸液を販売開始し、特に1968年には日本初のプラスチック容器の輸液製剤(③)を開発し輸液業界での地位を築きました。

進化を遂げる大塚の臨床栄養製品

1974年には自社開発した初の輸液として、二糖類・糖質補給剤「マルトースー10」(④)を発売。血糖値を上げずに従来の5%ブドウ糖液の2倍のカロリーを補給できるという画期的な糖質液でした。その後、1979年に糖質・電解質輸液「ボタコールR」、1982年には従来のアミノ酸輸液の概念から進歩したブドウ糖加アミノ酸注射液「プラスアミノ」(⑤)を開発・発売しました。プラスアミノは、ブドウ糖とアミノ酸を一剤化したことによる「末梢静脈栄養輸液」という新たな分野への第一歩となり、1996年の糖・電解質・アミノ酸液「アミノフリーード」(⑥)、2006年のビタミンB₁・糖・電解質・アミノ酸液「ビーフリーード」(⑦)、2020年のアミノ酸・糖・電解質・脂肪・水溶性ビタミン液「エヌフリーード」(⑧)へつながる基盤が確立されました。

1986年には当社初の中心静脈栄養輸液として、高カロリー輸液用糖・電解質液「トリバレン」(⑨)を開発。異なる糖質を独自に配合した中心静脈栄養輸液の基本液として、投与アミノ酸の利用効率を高めることを可能にしました。1988年には総合アミノ酸輸液「アミバレン」(⑩)を開発、TEO基準^{※1}に準拠したアミノ酸処方は現在も栄養輸液の基本処方となっています。中心静脈栄養輸液はその後も進化を続け、1994年には高

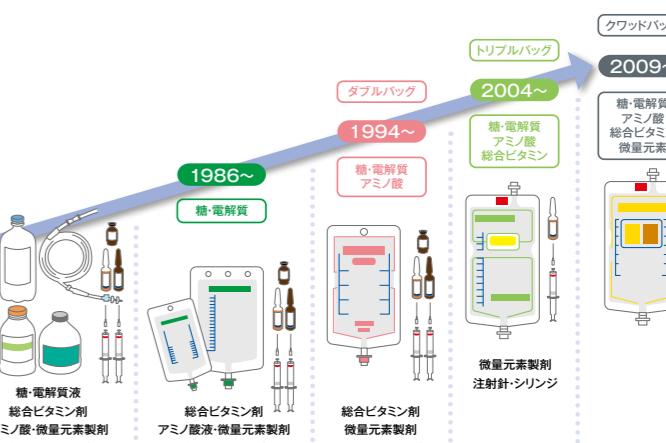


カロリー輸液用アミノ酸・糖・電解質液「アミノトリバ」(⑪)、2004年には高カロリー輸液用糖・電解質・アミノ酸・総合ビタミン液「ネオバレン」(⑫)、2009年には高カロリー輸液用糖・電解質・アミノ酸・総合ビタミン・微量元素液「エルネオバ」(⑬)を開発。また、輸液以外の臨床栄養製品としては、1999年に半消化態経腸栄養剤「ラコール」(⑭)、2019年には経腸栄養剤(経口・経管両用)「イノラス」(⑮)を開発しています。

*1 1976年に設立された国内7大学からなる「アミノ酸輸液検討会」が、1980年に提唱したアミノ酸組成に関する基準

革新的な容器開発

より良い容器を追求し、1977年には自社開発による画期的なツイスト・オフ・プラスチックアンプル(⑯)を発売、その技術を用いて、ピギーボトル(50～100mLの小さい容器)(⑰)の開発を進め、1984年に発売しました。小容量の輸液容器の開発と並行し、1986年にはシングルバッグ製剤(⑯)、1994年にはダブルバッグ製剤(⑪)を発売。2004年にはダブルバッグに小室を加えた「トリプルバッグ製剤」(⑫)を、2009年には上下2室のソフトバッグに二つの小室を加えた世界初の「クワッド(4室)バッグ製剤」(⑬)を開発・発売しました。



また、1995年には抗生物質と溶解剤をワンプッシュで無菌的に調製できる「大塚マルチチャンバーバッグシステム」を開発し、その技術を活用した世界初となる抗生物質キット製剤(⑯)を1996年に発売しました。なお、2006年には、医療現場の手間を軽減し簡便な操作で無菌的に使用できるプレフィルドシリンジ(薬液充填済み注射器)(⑯)を開発しています。

さまざまな領域に広がる製品開発

臨床栄養領域以外にも当社はさまざまな製品開発を行ってきました。1953年には大塚グループ初のOTC医薬品(一般用医薬品)「オロナイン軟膏」(㉑)を開発・発売。輸液開発で培った技術を生かし、2001年には、世界保健機関(WHO)の提唱する経口補水療法の考え方に基づいた経口補水イオン飲料「オーエスワン」(㉑)を開発。2004年には厚生労働省^{※2}より表示許可を取得し、日本で初めて、個別評価型病者用食品として経口補水液というカテゴリーを創出しました。また、1992年に発見した有効成分に着目し、2015年には、新規の外皮用消毒剤としては国内で五十数年ぶりとなる医療用医薬品「オラネジン」(㉒)を開発しました。

*2 現在は消費者庁が当該許可を与えています。

アンメットメディカルニーズへのチャレンジ

アンメットメディカルニーズ（いまだに有効な治療方法がない医療ニーズ）に対し、探索段階から患者さんや医療従事者の声に耳を傾け、その視線の先、未来にある課題をしっかりと捉え、革新的な製品開発に取り組んでいます。臨床栄養領域はもとより、手術周辺領域、再生医療領域において既存の枠組みにとらわれない柔軟な発想で、真に求められる製品を生み出しています。

臨床栄養領域における新たな価値創造、社会課題の解決

アミノ酸・糖・電解質・脂肪・水溶性ビタミン液「エヌフリード® 輸液」の開発

エヌフリード輸液は、糖、電解質、アミノ酸、水溶性ビタミンに加え脂肪をダブルバッグに一剤化した末梢静脈栄養輸液です。脂肪を配合することで、既承認の糖・電解質・アミノ酸輸液よりも多くのカロリー投与が可能であるとともに、末梢静脈栄養の実施時に必要な9種の水溶性ビタミンを配合（FDA2000処方^{※1}に準拠）したことにより、単剤で1～2週間程度の栄養管理が可能となります。

末梢静脈栄養法は、末梢静脈から水分および栄養素を補給する栄養法で、2週間程度が適応とされており、さまざまな診療科で広く実施されています。汎用される末梢静脈栄養輸液は糖・電解質・アミノ酸を含んでいますが、投与できるカロリーが少

なく、必要に応じて静注用脂肪乳剤が併用されています。

しかし、静注用脂肪乳剤は、配合変化や細菌汚染防止の観点から他剤との混合は禁忌とされるなど、使用にあたって注意を要する薬剤です。本製品は、使用時に隔壁を開通させることで、脂肪を含む各種配合成分を無菌的に混合調製し投与できるようにしたキット製剤です。

*1 2000年にFDA（米国食品医薬品局）が発出した静脈栄養のためのビタミン処方



経腸栄養法実施における医療事故の低減を目指して 一経鼻胃管先端位置確認システム「タムガイド®」

タムガイドは、経鼻胃管（栄養チューブ）内に挿入した光ファイバーに光源装置を接続し、チューブ先端が光った状態のまま食道を通して胃内に挿入することで、先端位置を体外から目視で確認することができる医療機器です。

経口的な食事摂取が困難な患者さんにおける栄養管理では、まずは生理的な投与経路である経腸栄養法が検討され、その投与方法として、しばしば鼻から胃に栄養チューブを挿入し栄養剤を投与する経鼻胃管法が用いられます。しかし、栄養チューブの先端が誤って気管に挿入されてしまったことに気づかないまま栄養剤を注入することで、深刻な障害を引き起こしてしまうリスク

エビデンスの構築による適切な栄養管理の普及を目指して

メディカルアフェアーズ^{※2}活動の一環として、当社ではさまざまな領域で臨床栄養の研究を企画、実施し、論文作成を進めています。2023年には手術後早期のアミノ酸投与の意義を示唆する基礎研究や集中治療室入室後の栄養管理でのアミノ酸処方量や脂肪乳剤処方に臨床転帰に及ぼす影響を示したデータベース研究論文^{※3}が「Journal of Parenteral and Enteral Nutrition」^{※4}、「Nutrients」^{※5,6}に掲載されました。

これらの研究により、手術後早期の栄養管理ではアミノ酸を投与することでアルブミン合成が促進すること、集中治療室での栄養管理ではアミノ酸処方量増加と院内死亡減少の関連、脂肪乳剤処方と院内死亡減少の関連が、それぞれ明らかとなりました。これらの結果はアミノ酸や脂肪乳剤が患者さんの予後に及ぼす影響を示した重要なエビデンスとなります。

私たちは引き続き、日本の栄養管理の実態や課題を明らかに

“暮らしの常備薬”「オロナイン® H軟膏

皮膚疾患・外傷治療薬「オロナイン® H軟膏」は、1953年に開発・発売した大塚グループ初のOTC医薬品（一般用医薬品）「オロナイン軟膏」からスタートしたオロナインブランドを継承し、70年にわたり、“暮らしの常備薬”として使われているロングセラーブランドです。にきびややけど（軽いもの）、すりきずなど12の効能効果があり幅広い年齢層^{※7}にご使用いただいています。

*7 小児に使用させる場合には、保護者の指導監督のもとに使用させてください。



第2類医薬品
オロナイン® H軟膏
11/50gチューブ
30/100/250g瓶

感染症や術後合併症の予防に寄与する手術周辺領域の研究開発

日本で五十数年ぶりの新規外用殺菌消毒剤「オラネジン®」を開発

患者さんの手術時の感染防止対策として、外用消毒薬は大きな役割を担っています。当社は、1992年に発見された有効成分に着目し、新規の外用殺菌消毒剤としては国内で五十数年ぶりとなる「オラネジン」を開発しました。非臨床試験の結果、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）やバンコマイシン耐性腸球菌（VRE）など従来の消毒薬に抵抗性を示す一部の菌株に対しても強い殺菌力が確認されており、術後感染防止策の新たな一助になる薬剤として期待されています。また、医療現場のニーズにお応えし、塗布範囲を識別できるよう橙色に着色した製剤も提供しています。



オラネジン® 液 1.5% OR 消毒用アプリケータ 10/25mL
オラネジン® 液 1.5% 消毒用アプリケータ 10/25mL
オラネジン® 消毒液 1.5% OR 200mL
オラネジン® 消毒液 1.5% 200mL

消毒剤と塗布器を一体化した独自のアプリケータ製品化技術を日本へ

当社は、米国の医療機関では一般的に使用されている消毒用アプリケータ（塗布器）を独自の技術で改良し、材質にガラスを用いず全てプラスチックとし、消毒剤と塗布器を一体化した日本初

となるアプリケータ型の製品として開発しました。簡便で衛生的かつ迅速な塗布が期待できる製品として、患者さんや医療従事者に貢献することを願っています。

「消化管内視鏡視野の確保」「EUS^{※1}の超音波伝達媒体」の使用目的をもつ医療機器として、自然開口^{※2}向け内視鏡用視野確保ゲル「ビスコクリア®」を開発

ビスコクリアは、食道・胃・十二指腸・小腸・大腸の消化器内視鏡検査や消化管内の処置、治療において、内視鏡を通して消化管内に注入し、血液などにより生じる内視鏡の視野不良を改善するための、血液などの拡散や流動を抑える粘性を持つゲル状の製品であり、自治医科大学の矢野医師らのグループの報告^{※3}を基に開発した、類似品のない管理医療機器です。透明で血液などの拡散や流動を抑える粘性を持つゲル状の本製品を内視鏡の先端から注入することにより、内視鏡前面に透明な空間が作り出され、良好な視野を確保できます。これにより、これまで視野不良に



ビスコクリア® 200g

よって内視鏡治療が困難であった状況においても止血術などの内視鏡治療が容易となります。また、2024年1月には新たに「EUSの超音波伝達媒体」の使用目的が追加されました。消化器内視鏡検査や治療へ貢献することが期待されています。

*1 超音波内視鏡検査

*2 口や鼻など、人体に備わった自然の開口部。

*3 Tomonori Yano et al.: Gastrointest Endosc. 2016 Apr;83(4):809-11. doi: 10.1016/j.gie.2015.09.048

注目される再生医療領域へのチャレンジ

再生医療^{※4}は、これまで有効な治療法のなかつた疾患に対する画期的な手法として、近年注目されています。当社ではこれまで培ってきた開発力を生かし、再生医療領域にも積極的にチャレンジしています。この新しい分野で研究開発を推し進め、医療に貢献することを目指しています。

例えば、当社は2011年にダイアトランズ大塚株式会社を設立し、糖尿病治療用のバイオ人工臍島「DIABECCELL®（ディアベ

セル）^{※5}」の研究開発・事業化を推進しています。新たな治療の選択肢を提供することを目指し、糖尿病およびその合併症の予防・治療の開発に引き続き取り組んでまいります。

*4 患者自身もしくは他の方の細胞・組織を培養等、加工したものを用いて、失われた組織や臓器を修復・再生する医療のこと。

*5 人移植用に無菌状態で飼育されたブタの臍島細胞をカプセルに閉じ込めたカプセル化ブタ臍島細胞で、糖尿病患者の腹腔内に移植し、インスリン分泌を補充する装置です。重症1型糖尿病治療の新たな選択肢になると期待されています。



患者さんの排尿ケアに貢献するソリューションの提供

さまざまな疾患により、「頻尿、尿が漏れる、尿が出にくい」という患者さんの膀胱機能確認（残尿量・蓄尿量・排尿量の確認やパターン把握）や排尿ケアのニーズが高まっています。また、超高齢社会を迎えた日本の医療・介護領域においては、平成28年度の診療報酬改定で新設された排尿自立指導料が、令和2年度の診療報酬改定で排尿自立支援加算と名称を変え拡充されるなど、排泄自立の重要性が認識されています。

このような背景を踏まえ、私たちは2016年から膀胱用超音波画像診断装置として、膀胱内尿量を連続的に測定できる「リリアムα-200（終売）」を発売し（現在は改良製品である「リリアムIP200」を販売）、また2023年3月には単回測定に特化した「リリアムワン」をそれぞれ発売しました。一方、2022年には自己導尿のための間欠泌尿器用カテーテルとして、単回で使用する「アクトリーン」や、再利用可能な「OTバルーンカテーテル」などを発売し、泌尿器・排尿領域製品の充実を図ってまいりました。私たちは今後も、患者さんの排泄ケアに貢献できる製品展開を進めてまいります。

医薬品からメディカルフーズの開発へ

エビデンス（科学的根拠）に裏付けられた製品開発

私たちは、臨床栄養に強みをもつ製薬会社だからこそできる、エビデンスに裏付けられた独創的な食品を開発することをミッションとし、医療・介護の場で役立つこれらの食品を「メディカルフーズ」と呼んでいます。超高齢社会に突入し

た日本において、製薬会社に課せられた使命に鑑み、「脱水」「低栄養」「えん下障害」をキーワードに製品開発を加速させています。また、国内のみならず、アジアを中心に海外での事業展開、製品開発にも取り組んでいます。

輸液のリーディングカンパニーが開発した経口補水液「オーエスワン®」シリーズ



感染性腸炎、感冒による下痢・嘔吐・発熱、高齢者の経口摂取不足、過度の発汗を原因とした脱水症になってしまった場合、失われた水と電解質を速やかに補給しなければなりません。そこで私たちは、世界保健機関（WHO）の提唱する経口補水療法の考え方に基づき、電解質と糖質の配合バランスを考慮した経口補水液「オーエスワン」を開発しました。2004年に経口補水液としては日本で初めて、特別用途食品個別評価型病者用食品としての表示許可を厚生労働省[※]より取得し、軽度から中等度の脱水症のための食事療法（経口補水療法）に広く活用されています。

オーエスワンは、患者さんやご高齢の方、小児まで広くご

使用いただく病者用食品として、開けやすさや扱いやすさに配慮した容器改良や、新フレーバーであるオーエスワン アップル風味を追加発売するなど、利用しやすさに配慮した製品作りを行っておりました。

オーエスワンシリーズには、ゼリーや粉末のタイプもあります。オーエスワンゼリーは、咀嚼・えん下困難な場合にも用いることができ、塩味を感じにくく、小さなお子さまにも飲みやすくなっています。オーエスワンパウダーはコンパクトで携帯しやすく、賞味期限が5年6ヶ月あり、省スペースで長期保存可能なことから、防災キットへの導入など、さまざまな用途での使用提案をしています。

※現在は消費者庁が当該許可を与えています。

TOPICS さまざまなガイドライン等で有用性が紹介

オーエスワンは、さまざまなガイドライン等でその有用性が紹介されています。例えば、日本小児救急医学会「小児急性胃腸炎診療ガイドライン2017」においては、欧米の勧告レベルに合致する経口補水液として、食品ではオーエスワンが掲載されています。また、日本救急医学会「熱中症診療ガイドライン2015」や、日本サッカー協会「熱中症対策ガイドライン」においても、熱中症の予防や治療に経口補水液の活用が推奨されており、その代表的な製品としてオーエスワンが掲載されています。



食事として摂取すべき栄養素をバランスよく配合した濃厚流動食品「ハイネックス®(HINEX)」シリーズ

大塚グループでは輸液を中心とする臨床栄養製品の開発力を生かし、1970年代より、患者さんが経口摂取できる栄養食に着目した製品開発に取り組んできました。1979年に発売した濃厚流動食品の「ハイネックス(HINEX)」ブランドは、国内だけでなく海外にも製品展開しています。

日本国内では、ハイネックスイーゲルとハイネックスイーゲルLC、ハイネックスリニュート、ハイネックスゼリーを

展開しています。ハイネックスイーゲルとハイネックスイーゲルLCは使用時に液体で、胃の中でゲル状に物性が変化する濃厚流動食品です。ハイネックスリニュートは栄養再開初期のタンパク質、エネルギーなどの補給に配慮した濃厚流動食品で、ハイネックスゼリーは半固形状（ゼリータイプ）の濃厚流動食品です。今後もラインアップのさらなる充実を図り、患者さんの栄養状態の改善に貢献してまいります。



運動やリハビリに必要な栄養を考えたカラダづくりサポート飲料「リハデイズ®」

運動やリハビリ時は、十分なエネルギーと栄養素の摂取が必要です。「リハデイズ」のネーミングは、「リハビリ」+「Days」を組み合わせたもので、毎日の運動やリハビリを応援するという意味を込めています。日々の運動やリハビリ時の栄養補給にお役立ていただけるように、ロイシン^{※1}、シトルリン^{※2}、ビタミンDおよびカルシウムを配合したカラダづくりサポート飲料です。

※1 ロイシンはBCAA（分岐鎖アミノ酸）の一つです。BCAAは、外部から補う必要のある必須アミノ酸の約40%を占め、アミノ酸の中でも栄養学的效果が特に注目されています。

※2 シトルリンは尿素回路を構成する化合物の一つで、1930年に日本の研究者によってスイカの果汁から発見されました。動物、特に哺乳類に広く存在するアミノ酸です。



腸の栄養を考えて3種の栄養素を配合した粉末清涼飲料「ジーエフオー®」

体内的免疫細胞の60%以上が存在し、人体で「最大の免疫器官」とも言われる腸。私たちは腸の栄養に着目し、2003年にグルタミン、ファイバー、オリゴ糖の3種の栄養素を配合したジーエフオーを発売しました。2021年には食物繊維としてガーガム酵素分解物を配合、ラクトスクロースをフラクトオリゴ糖に変更し乳糖フリーとし、ピーチティー風味にリニューアルしました。



食べるということの大切さを考えた、消費者庁許可特別用途食品えん下困難者用食品「エンゲリード®」

高齢化が進む医療・介護の環境の中で、えん下困難者が口から食べることをサポートするゼリー食品として開発されたのがエンゲリードです。消費者庁の定める特別用途食品えん下困難者用食品（許可基準I）の表示許可を取得したゼリーです。えん下困難者が経口摂取を開始する時などに使用し、食べる喜びを取り戻していただきたい。そういった願いから生まれた製品です。

「食べる」をサポートする咀嚼開始食品「プロセスリー[®]」

食事の摂取には、咀嚼（かむ）、食塊形成（まとめる）、えん下（飲み込む）までの連続したプロセスがあります。咀嚼開始食品プロセスリーは、摂取時には固形物の食感を持ち、咀嚼すると飲み込みやすいペースト状になる物性に調整しており、咀嚼・えん下機能の低下した方にも食べていただくことを考えた医療や介護の場のニーズに対応した食品です。



安心して製品を使っていただくために



安全性と品質の徹底追求

当社は、医薬品や医療機器、メディカルフーズなどを扱う生命関連企業として、患者さんや医療従事者をはじめ皆さんに安心して製品を使っていただくことを第一に考え、製品の研究開発から生産、物流までの全ての段階で、品質を最優先にしています。法令や行政・業界基準に準拠することはもちろん、製品ごとの特性に合わせた厳格な品質管理体制を構築しています。生産部門や品質部門の一人一人が「医療の一端を担う」という高い使命感を持ち、皆さんに安全で安心かつ高品質な製品を安定してお届けするために、徹底した品質管理に取り組んでいます。



高品質な製品の安定供給のために

当社では、生産部門の一人一人が医療の一端を担うという高い意識を持ち、GMP*文書などマニュアル化された厳格な手順書に従い、製造を行っています。複雑化・高度化する医薬品製造装置や、コンピューターシステムバリデーションに代表される製造装置制御のソフトウェアなどへの対応も、品質に大きくかかわるファクターとして重要視されており、製造に携わる社員には、より高度な知識と技術が求められるようになっています。このような現状を踏まえ、生産部門では、これまでに蓄積された当社の製造技術や新しい技術を正確に承継・習得するための教育プログラムに加え、管理者のためのスペシャリスト教育、各種技能検定資格取得の奨励、生産活動に関する創意工夫の提案を幅広く募り実行する提案活動など、高品質な製品の安定供給に貢献するさまざまな取り組みを行っています。

*GMP (Good Manufacturing Practice) : 医薬品等の製造管理および品質管理に関する基準。



2020年に松茂工場に竣工した世界最高水準の品質と高い生産能力を持つ輸液製剤の新工場「MP-Ⅶ」



「品質は工場の命にして包装も亦品質なり買う身になりて造れ賣れ」。この書は、「おやじさん」として社員に親しまれ、大塚月峰という雅号を持つ書の大家でもあった創業者・大塚武三郎（1891～1970年）がしたためた社訓です。1946年、注射薬の製造販売を開始するにあたり、「製造・運送・販売に従事する人々の必ず実行すべき事柄である」と社員に示したもので、この社訓は、今も当社の正面玄関や各工場に掲示されています。ここに記されている品質への思いは、世代を超えて社員に受け継がれ、現在に至るまで、大塚の「ものづくり」を支える基盤となっています。



日本の輸液を支える生産拠点

自然環境と共に存しながら、高品質の製品を安定供給

安定した輸液製造のためには、豊かで清らかな水環境が必要です。当社の国内4工場は、創業の地である徳島県の鳴門市と板野郡松茂町、北海道釧路市、富山県射水市に立地し、それぞれ豊かな自然環境と共に存しながら製造を行っています。

鳴門工場

大塚グループの発祥の地であり、当社の本社や研究所がある鳴門地区は、輸液のリーディングカンパニーの本拠地としての役割を担っています。瀬戸内海にほど近く、観光資源にも恵まれた自然豊かな地です。

ここでは、注入針付キット製剤やプラスチックボトル製剤の製造に加え、歴史を積み重ねてきたブランドのオロナインH軟膏などを製造しています。

- 所在地/徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115
- 操業/1921年
- 敷地面積/102,644m² (本社、研究所等含む)
- 主な製造品目/注入針付キット製剤、プラスチックボトル製剤、OTC (一般用) 医薬品他 ISO14001認証取得 (2003年5月)



松茂工場

はるか紀州や淡路島を望む紀伊水道沿岸の工業団地内にあり、徳島空港に隣接し県外からのアクセスもよい松茂工場は、合理化された高性能の輸液工場です。

ここでは50mLから1000mLのシングルバッグ製剤、ダブルバッグ製剤、20mLのプラスチックアンプル製剤の製造に加え、当社が世界で初めて開発したダブルバッグタイプの抗生物質キット製剤などを製造しています。

- 所在地/徳島県板野郡松茂町豊久字豊久開拓139-1
- 操業/1990年
- 敷地面積/165,611m²
- 主な製造品目/シングルバッグ製剤、ダブルバッグ製剤、プラスチックアンプル製剤、抗生物質キット製剤他 ISO14001認証取得 (2003年8月)



釧路工場

タンチョウ（丹頂鶴）で有名な釧路湿原国立公園に近く、水質の良い広大な土地を生かした釧路工場は、当社の北の拠点として、各種輸液製品の製造を行っています。

ここでは200mLから500mLのシングルバッグ製剤、20mLのプラスチックアンプル製剤に加え、当社が世界で初めて開発したクワッドバッグ製剤などを製造しています。

- 所在地/北海道釧路市音別町朝日1丁目13
- 操業/1976年
- 敷地面積/244,475m²
- 主な製造品目/シングルバッグ製剤、トリプルバッグ製剤、クワッドバッグ製剤、プラスチックアンプル製剤 ISO14001認証取得 (2002年9月)



富山工場

富山工場は、北は富山湾、南東には立山連峰と、自然が豊かな水資源に恵まれた環境にあります。日本で唯一の静注用脂肪乳剤を製造している工場です。

ここでは50mLから250mLのシングルバッグ製剤に加え、ダブルバッグ製剤、クワッドバッグ製剤を製造しています。

- 所在地/富山県射水市有磯2丁目27-1
- 操業/2001年
- 敷地面積/75,300m²
- 主な製造品目/シングルバッグ製剤、ダブルバッグ製剤、クワッドバッグ製剤 ISO14001認証取得 (1999年4月)



大塚製薬工場の受託製造とは

輸液周辺技術を生かした受託事業

医療に幅広く貢献する輸液のリーディングカンパニーとして、当社は75年以上にわたり培った経験を生かし、輸液周辺技術をさらに進化させることに努めています。中でもプラスチック容器、フィルム、製剤化等の技術は、大塚製薬工場ならでは、といえる画期的なものづくりと高い品質を支えています。当社は、



医薬品の開発・製剤設計から実生産までをフルサポート

当社の受託事業の強みは、輸液事業で培った輸液周辺技術を生かした製品の提案と、高品質で効率的な生産システムの提供です。委託会社の多様なニーズに応じて、技術部門、品

こうした強みを生かして、他の製薬会社から委託を受け、開発・製剤設計から実生産まで対応する受託事業を展開しています。各製薬会社のニーズに応え、医療に貢献できる製品を市場に送り出すための万全な体制を常に整えています。

医療現場のニーズに応えて

情報提供・収集による医療への貢献を目指して



超高齢社会における私たちの新たな役割

超高齢社会である日本において、2025年を目指すが進められているのが「地域の包括的な支援・サービス提供体制（地域包括ケアシステム）」です。地域包括ケアシステムとは、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、医療、介護、予防、生活支

援、住まいを包括的かつ継続的に提供するシステムです。患者さんに合わせてきめ細やかな対応を求められる医療従事者に対し、急性期医療から在宅医療までの栄養管理を総合的にサポートする当社製品や関連情報の提供を行うことで、私たちは、地域包括ケアシステムへの貢献を目指しています。

援、住まいを包括的かつ継続的に提供するシステムです。患者さんに合わせてきめ細やかな対応を求められる医療従事者に対し、急性期医療から在宅医療までの栄養管理を総合的にサポートする当社製品や関連情報の提供を行うことで、私たちは、地域包括ケアシステムへの貢献を目指しています。

幅広いニーズに対応する受託製品ラインアップ

現在、多くの製薬企業から委託を受け、さまざまな剤形の医薬品を製造しています。注射剤では「大塚マルチチャンバーバッグシステム」（抗生物質と溶解剤がワンパッケージで無菌的に調製できる容器の仕組み）を活用した抗生物質キット製剤をはじめ、小容量に対応したプラスチックアンプルや、各種ソフトバッグ製剤を製造しており、外用剤では軟膏やク

リーム剤等を取り扱っています。また、大塚グループ各社と連携した受託製造も行っており、子会社である株式会社ジェイ・オー・ファーマでは、プレフィルドシリンジ製剤を製造しています。今後も受託事業領域におけるベストパートナーシップの確立を目指して、医療に幅広く貢献できる受託製品を提供します。

栄養サポートチーム (NST) との関わり

医療機関では、NST (Nutrition Support Team) というチームの活動が重要視されています。NSTは、医師、薬剤師、看護師、栄養士などの医療従事者が職種を超えて連携し、それぞれの知識を持ち合い、患者さんにとって最良の栄養支援を検討し実行する専門チームのことです。栄養状態を良好に保つことで、患者さんの治療効果を上げるとともに、感染症

や合併症のリスクを下げるなど、患者さんのQOLの向上を目的にしています。輸液や経腸栄養剤などの医療用医薬品を扱う当社のMRは、特に栄養管理に関して幅広く情報収集を行っています。私たちは、NSTを対象とした勉強会を継続的に実施し、栄養管理における最新の知見や症例などの情報を、的確かつタイムリーに医療従事者に提供しています。

株式会社ジェイ・オー・ファーマ

医療の現場に安心と信頼を最新技術でサポート

プレフィルドシリンジ（薬液充填済み注射器）の専業メーカーとして、最新鋭の製造設備と厳格な品質管理、医療現場の声による継続的な製品改良により、常に最高の製品づくりを目指しています。



島根県出雲市下古志町 127-1
Tel.0853-24-8760
事業内容：プレフィルドシリンジ（薬液充填済み
注射器）製造

医療環境への知識を深め、より医療従事者に貢献するために

当社では、MRをはじめとする営業部門の社員へ、医療経営士資格の取得のサポートをしています。医療経営士とは一般社団法人医療経営実践協会が認定する資格であり、医療機関をマネジメントする上で必要な医療および経営に関する知

識と経営課題を解決する能力を有し、実践的な経営能力を備えたことを証明する資格です。当社では、医療環境や医療情勢の知識を深めることで、医療従事者のベストパートナーとして現場に求められる人材を育成することを目指しています。

世界へ広がる大塚の輸液

日本の輸液のリーディングカンパニーとして培った当社の高い技術力を生かし、大塚グループでは、1970年代から海外展開を始め、現在、当社を含め17の事業会社で輸液事業を行っており、各国の医療に貢献しています。それらの多くで輸液を現地製造しており、適正価格での提供や雇用創出など、地域社会への貢献にもつながっています。また輸液を輸出するこ

とで、周辺諸国の医療にも深く関わりを持ち、グローバルな視点でビジネスを展開しています。当社はこれからも、輸液を中心とした医療用医薬品やメディカルフーズなどの分野で、各国の市場ニーズに合った、より付加価値の高い製品の海外展開を図り、現地の医療に貢献していきたいと考えています。

当社の子会社・関連会社である輸液事業会社
以外の大塚グループ輸液事業会社



大塚製薬インド株式会社

成長が期待されるインド医薬品市場への参入を目的とし、2013年、現地輸液事業会社に当社が資本参加、2017年、「大塚製薬インド株式会社」に社名変更。海外約60カ国・地域に製品を輸出しています。



TOPICS インドでの経済産業省認定

「日本式ものづくり学校（JIM）」の運営

日本・インドの両政府が進める、製造業分野の連携強化を目的とした「ものづくり技能移転推進プログラム」に基づく「日本式ものづくり学校（JIM:Japan-India Institute for Manufacturing）」として、2019年から人材育成機関「Otsuka JIM」を大塚製薬インド内に開校しています。日本式ものづくり学校とは、日本企業がインドの若者に対し、製造現場に必要な規律・心構えや実践的な技能を直接指導し、将来の現場リーダーを育成する学校として、経済産業省が認定するものです。



TOPICS 医療過誤の防止に貢献する抗生物質キット製剤を中国で初めて販売開始

2017年、大塚製薬工場は、中国より「注射用セファゾリンナトリウム／塩化ナトリウム注射液」の輸入医薬品ライセンスを取得し、日本から中国への輸出を開始。2018年1月には中国において初めて抗生物質キット製剤を使用した手術が行われました。同年12月には蘇州大塚製薬有限公司が自社製造の抗生物質キット製剤を中国国内で販売開始いたしました。医療従事者の作業負担軽減、医療過誤の防止に寄与する同製品を通じて、1980年代より輸液事業を展開している中国の医療にさらに貢献してまいります。



中国で初めて抗生物質キット製剤が使用された手術



世界基準であるPIC/S GMPに準拠し、かつ生産能力も拡大した新工場

*1 PIC/S (Pharmaceutical Inspection Convention and Pharmaceutical Inspection Co-operation Scheme)：医薬品検査協定および医薬品検査共同スキーム、医薬品分野での調和されたGMP基準および検査当局の品質システムの国際的な開発・実施・保守を目的とした検査当局間の非公式な協力の枠組み。

*2 GMP (Good Manufacturing Practice)：医薬品等の製造管理および品質管理に関する基準。

主な製品のご紹介～進化し続ける製品ラインアップ～

医療用医薬品

■高カロリー輸液用キット製剤



■低濃度糖加アミノ酸製剤



■糖類剤



■電解質製剤



■アミノ酸・糖・電解質・脂肪・水溶性ビタミン液製剤



エネフリー_® 輸液
550/1100mL バッグ

■経腸栄養剤



■外用殺菌消毒剤



■抗生素製剤



■胃炎・胃潰瘍治療剤



■V₂-受容体拮抗剤 トルバタン 口腔内崩壊錠

医療機器



口腔ケア製品



メディカルフーズ

■経口補水液



■濃厚流動食品関連製品



■えん下困難者用食品



■咀嚼開始食品



OTC 医薬品（一般用医薬品）

■皮膚疾患・外傷治療薬



■便秘薬



■乾燥性皮膚治療薬



ERM（全社的リスクマネジメント）の構築とBCP（事業継続計画）への取り組み

当社は、企業理念の実現や、事業戦略の目標達成に大きな影響を与える不確実性を「リスク」と定義し、ERMの構築に取り組んでいます。ERMを通じて当社が目指すべき姿は、実効性のあるリスク管理活動を組織の隅々まで浸透させ、変化に対応できる強い組織になることです。

その実現のため、当社ではリスク管理規程を定め、リスク管理委員会を設置しています。リスク管理委員会では、毎年各部でのリスクアセスメントや経営層へのマネジメント・インタビューを実施することで次年度の重要なリスクを選定し、そのリスクの管理方針・アクションプランを定め、四半

期ごとに各リスクの管理状況を検証しています。

組織全体を対象にリスクを認識・評価することで、残余リスクの最小化を図り、また、重要リスクに対応するため、経営危機をもたらすリスクの未然防止（リスクマネジメント）、インシデントが発生した場合の被害拡大防止（クライスマネジメント）、自然災害やパンデミックなど、事業継続に大きな影響をもたらすリスクの中での事業継続計画（BCP）の3つの観点より、より強固なリスクマネジメント体制の構築に取り組んでいます。

国際規格「ISO22301」の認証取得

大塚ホールディングス株式会社において、事業継続マネジメントシステム国際規格「ISO22301」を認証取得しており、その適用範囲に当社の主力製品である「輸液の安定供給」が含まれています。災害発生時においても、大塚グループ全体で、最大限に事業活動を継続し安定した製品供給ができる対策・体制の強化に取り組んでいます。

自然災害に備えた取り組み

当社は、南海トラフ地震による浸水被害が懸念される徳島県の生産拠点に、徳島県津波浸水想定を基に、防潮堤を設置するなど工場内への浸水を防止するための対策を講じています。鳴門工場には、生産建屋ごとに防潮扉を設置し、河川水の逆流による浸水被害を早期解消するため、排水機能の補強・

改修を行っています。松茂工場には、工場敷地の外周に防潮堤を設置しました。この外周には排水口ゲートを設け、逆流による浸水から工場を守ります。また、ユーティリティー対策として、両工場ともに工業用水の配管を耐震性のあるNS形ダクタイル鉄管へ更新しました。

松茂工場における外周防潮堤の設置



外周防潮堤 ●全長／1,620m ●設置年月／2014年6月 ●高さ／東西南面2.0m (T.P.+3.9m)、北面2.70～3.35m
●鋼管杭／径Φ300～400mm、長さ17～20m、本数678本

製品の安定供給に向けて

当社の主力製品である輸液は、有事の際、初期治療で特に必要とされるものです。輸液の国内市場において過半数のシェアを占める会社として、私たちには甚大な災害下でも機能するBCPが求められます。輸液のリーディングカンパニーとして課せられた使命に鑑み、「生命の安全確保」「企業資産

の保全」「製品在庫と原材料の確保」「物流手段の確保」という4つの視点からBCPに取り組み、リスクが顕在化した場合においても適切な対応を図ることにより、被害・損失を最小限に留め、事業活動を継続し、製品の安定供給を確保すべく体制を構築しています。

生命の安全確保

社員の安全確保を第一に考え、建屋・設備の耐震性の確保や緊急地震速報受信装置の設置、通信手段の多様化・多重化を図るとともに、安否確認システムによる従業員の安否確認や、従業員への有用な情報をまとめた災害時ポケットマニュアルの配布などを行っています。また全事業所に、防災用品や食料品、生活用品を備蓄する一方、社員のみならず周辺地域と一体となった防災訓練にも取り組んでいます。



停電時に自動で20時間以上点灯するLED防災ライトを避難経路・避難場所に設置

企業資産の保全

大規模地震による津波浸水・液状化等の被害を軽減するため、建屋の耐震補強や防潮堤を設置しています。さらに生産工場にエネルギー（電気、蒸気、冷却水等）を供給するための配管ラックの支柱を補強するとともに、液状化時に生じる構造物の傾斜を軽減する対策を講じています。また重要データ・システムが被害を受けた際、速やかにデータを復旧できるようデータセンターを多重化し、バックアップ体制を構築しています。



松茂工場への外周防潮堤の設置

製品在庫と原材料の確保

生産施設が甚大な被害を受けた場合でも、治療に欠かせない製品やシェアの高い製品については、継続して供給ができるよう、製品在庫を確保しています。また、非常時に原材料の入手が困難になることにより、当社の製品安定供給に支障が出ないよう、リスクが顕在化する前に予兆を察知し、迅速に対応するため、平時より原材料の適正在庫の確保と複数社購買に取り組んでいます。



輸液の在庫管理を行っている製品保管庫

物流手段の確保

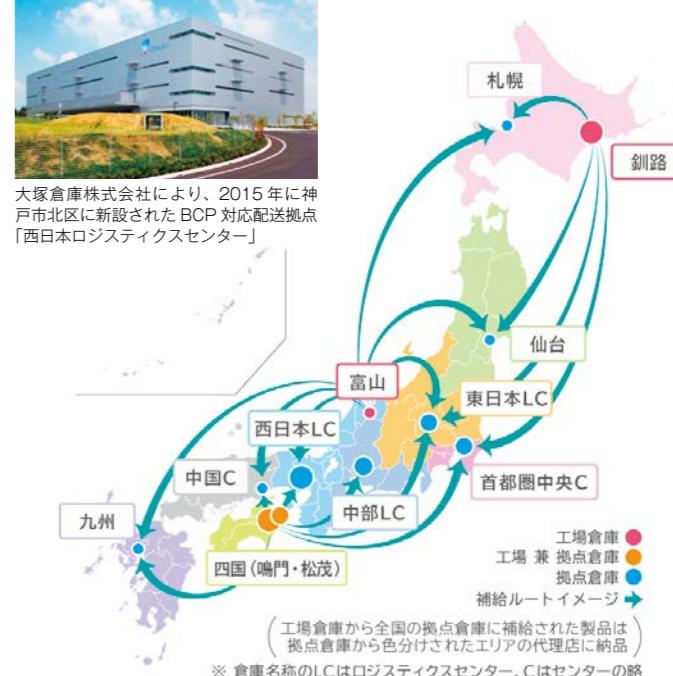
大塚グループの物流を担う大塚倉庫株式会社は、物流拠点・製品在庫の分散化やネットワークの構築、新たな在庫拠点の確保、受注センターの多重化、配送ルートの多様化など、全国の拠点ネットワークを生かし、万一の際にも迅速に物流サービスを提供できる体制を整備しています。



大塚倉庫株式会社により、2015年に神戸市北区に新設されたBCP対応配送拠点「西日本ロジスティクスセンター」

TOPICS 大塚グループで取り組むBCP演習

大塚グループは、想定外の事態が起きた際の対応力・応用力・想像力を強化するため、脅威が実際に発生した状況を想定した演習を、定期的にグループ主要会社合同で実施しています。また当社においては、主力製品である輸液の安定供給に関わる関連部署と連携し、2023年に初動対応手順書を見直し、BCPに沿った机上演習訓練を実施しました。現状課題の整理、対応策等をグループ全体で議論し、リスクマネジメント機能の強化に取り組んでいます。



(工場倉庫から全国の拠点倉庫に補給された製品は
拠点倉庫から色分けされたエリアの代理店に納品)
※ 倉庫名称のLCはロジスティクスセンター、Cはセンターの略

サステナビリティ

当社は、事業を通じた社会課題の解決に取り組み、健康でサステナブルな社会の実現に貢献するとともに、自らの持続的な成長を実現したいと考えています。その礎となる最適なガバナンス体制の構築・強化に努め、社会と地球の健康に貢献する各活動目標の達成に取り組みます。

大塚製薬工場が取り組む SDGs

健康と福祉に対する指標はもちろん、人権や環境への配慮など幅広い社会課題の解決を目指し、事業活動を行ってまいります。

3 すべての人に健康と福祉を <ul style="list-style-type: none">基礎的医薬品である輸液を中心とした医薬品や医療機器、メディカルフーズ等のアンメットメディカルニーズに応える研究開発および製品の安定供給適切な栄養管理に関する最新情報の提供、製品を通じた啓発活動	5 ジェンダー平等を実現しよう <ul style="list-style-type: none">大塚グループとして、WEPs（女性のエンパワーメント原則）に署名	6 安全な水とトイレを世界中に <ul style="list-style-type: none">地域の水資源の課題を把握し、保全に継続的に取り組むことで、持続的な水利用を実現
9 産業と技術革新の基盤をつくろう <ul style="list-style-type: none">海外輸液事業会社の多くで、高品質な輸液の現地製造を行うことによる、医薬品の適正価格での提供と雇用の創出	12 つくる責任つかう責任 <ul style="list-style-type: none">資源利用効率の改善や廃棄物のゼロエミッションを通じた資源の効率的な利用	13 気候変動に具体的な対策を <ul style="list-style-type: none">徹底した省エネ対策の推進と再生可能エネルギーの活用によりCO₂排出量を削減
10 人や国の不平等をなくそう <ul style="list-style-type: none">人権・労働・環境・腐敗防止等を考慮した大塚グループ横断の「調達方針」を策定	11 住み続けられるまちづくりを <ul style="list-style-type: none">有事に備えた製品の在庫確保等の安定供給への取り組みや、地方自治体との包括連携協定の締結	16 平和と公正をすべての人に <ul style="list-style-type: none">関連する法令やコンプライアンスプログラム等の遵守
11 住み続けられるまちづくりを <ul style="list-style-type: none">有事に備えた製品の在庫確保等の安定供給への取り組みや、地方自治体との包括連携協定の締結	13 気候変動に具体的な対策を <ul style="list-style-type: none">徹底した省エネ対策の推進と再生可能エネルギーの活用によりCO₂排出量を削減	16 平和と公正をすべての人に <ul style="list-style-type: none">関連する法令やコンプライアンスプログラム等の遵守

地球環境の保全のために

大塚グループの環境方針

大塚グループは、人々の健康と地球の健康に貢献する、なくてはならない企業を目指して、創造性を持って課題に挑戦し続けることにより、人と地球が将来にわたって共存できる社会を実現します。

大塚製薬工場の環境理念

“環境保全は全員参加の経営活動”一大塚製薬工場は、人々の健康（体内環境）と地球環境（体外環境）の保全を目指した環境活動を全社的に推進し、持続可能な循環型社会の実現と、自然と融和した社会の創造に貢献します。

環境活動指針

●カーボンニュートラル

事業活動全体でカーボンニュートラルに取り組み、脱炭素社会の実現を目指します。

●サーキュラーエコノミー

化石資源由来原料からの脱却とゼロ・ウェイスト[※]に取り組み、サーキュラーエコノミー型社会の実現を目指します。

※自然への廃棄物の排出（単純焼却・埋立）をゼロにし、全ての資源を有効利用する考え方

●ウォーターニュートラル

水を大切に使いキレイに還す取り組みを通して、水資源の持続可能な利用を目指します。

●環境コンプライアンス

環境マネジメント体制を継続的に改善し、コンプライアンスの実効性を高め、リスクを低減します。

●コミュニケーション

環境に関連する情報を透明性高く積極的に開示し、ステークホルダーとのコミュニケーションを推進します。

大塚グループ CDP気候変動において最高評価の「Aリスト」に選定

大塚グループは、2024年2月、世界的な環境情報開示システムを運営する非政府組織であるCDPより、気候変動対策および開示に優れた企業として、最高評価の「Aリスト」に2年連続選定されました。また、水セキュリティにおいては、「A-」認定を取得しました。これにより、「気候変動」と「水セキュリティ」の2部門において「リーダーシップレベル」の認定を受けました。CDPは、投資家、企業、国家、地域、都市が自らの環境影響を管理するためのグローバルな情報開



カーボンニュートラル

省エネ対策の推進と再生可能エネルギーの活用により、温室効果ガスの排出量を削減し、脱炭素社会の構築に寄与することを目指します。

大塚グループ5社^{※1}において、オフィス部門の全ての電力に対して「グリーン電力証書」を購入し、グリーン電力への切り替えを行い、国内全工場においてもCO₂を排出しない再生可能エネルギーに由来するCO₂フリー電力の導入を完了しました。

これらに加え、当社鈴鹿工場および大塚製薬インドに自家消費型太陽光発電設備^{※2}を、鳴門工場と松茂工場、富山工場にはコーポレートネーションシステム^{※3}を導入しました。その他、国内全工場で環境負荷の少ない燃料に転換するなど、

CO₂排出量の削減を積極的に推進した結果、2022年の国内におけるCO₂排出量は47千tで、基準年（2017年）比で49%削減することができました。

*1 当社および大塚製薬株式会社、大鵬薬品工業株式会社、大塚化学株式会社、大塚食品株式会社

*2 自家消費型太陽光発電：太陽光発電による電力を売電ではなく自家消費するシステム。

*3 天然ガス、LPガス等を燃料として、エンジン、タービン、燃料電池等の方式により発電し、その際に生じる排熱も同時に回収することで、熱と電気を無駄なく利用するシステム。



TCFD TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

RE100 | **CLIMATE GROUP** | **CDP**

大塚グループの気候変動に対する取り組み

大塚グループでは、事業活動におけるすべての環境負荷をゼロにするという2050年環境ビジョン「ネットゼロ」のもと、まずは、気候変動においては「2028年CO₂排出量2017年比50%削減」の目標を掲げ、太陽光発電設備やCO₂フリー電力の導入による再生可能エネルギーの活用、コーポレートネーションシステム導入によるエネルギー利用効率の向上、燃料転換等をグローバルで推進し、グループ協働で取り組みを行っています。また、2021年には「気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）」の提言への賛同を表明、2022年には、事業活動で使用する電力を100%再生可能エネルギーにすることを目指す国際的なイニシアチブ「RE100」に加盟しました。

サーキュラーエコノミー

サーキュラーエコノミー（循環経済）型社会の実現のため、化石資源由来原料の使用ゼロおよびゼロ・ウェイストをビジョンとして活動し、バリューチェーン全体で資源効率を高め、生物資源を含む資源との持続可能な共生関係を構築していきます。

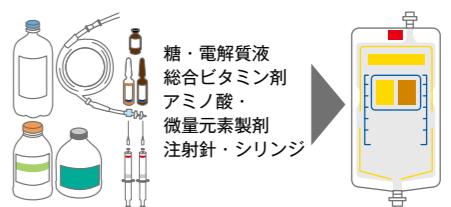
その一環として、当社では、原料調達から廃棄に至るまでの各段階において、環境負荷を最小限に抑えるために、容器包装の軽量化など、環境に配慮したモノ作りに努めています。

世界初の4室構造のキット製剤（カワッドバッグ）では、それぞれの製剤を混合する従来の方法に比べ、安全性や利便性が向上するとともに、薬剤容器や注射針などの廃棄物削減を図り、ダブルバッグ製剤においては従来と比べて外袋・容器フィルムの厚さを変更することにより製品のライフサイク

ル全体で1袋（500mL）あたりの重量を約35%削減、CO₂排出量を38%削減できました。

これからも、医療廃棄物の削減のために、製品の設計・開発・製造段階から積極的に取り組むとともに、廃棄物の発生抑制、資源の利用効率の改善や循環利用の推進を通じて、資源の持続可能な利用を目指します。

安全性や利便性が高く、環境にも配慮した製品の開発



では、タンク内の洗浄殺菌作業改善や洗浄水配管のルート見直しにより約88%の節水を達成、殺菌効果向上と排水の再利用促進にも寄与しました。

ウォーターニュートラル

当社の事業活動において、水は欠かすことのできない大切な資源であり、取水から排水に至る水の保全に継続的に取り組む（水を育む森づくり→水を大切に使う→水をキレイに自然に還す）ことで、持続的な水利用を目指します。松茂工場

大塚グループで取り組む“清流”穴吹川上流地域での森づくり活動

当社は、2010年から継続して、徳島県の地球温暖化対策推進条例に基づく「とくしま協働の森づくり事業」のパートナーシップ協定を締結しています。この事業は、カーボン・オフセット^{※4}の仕組みをモデル的に実施し、協定を結んだ事業所や個人からの寄付金で森林の間伐や植林などの整備を行うものです。この取り組みを拡大する形で、2019年からは、徳島県下大塚グループ10社で「FABとくしま森づくり事業^{※5}」の協定に締結し、穴吹川FABとして、穴吹川上流地域（美馬市木屋平）で活動し、集中して森林整備を支援するホスト企業グループとして「森づくり活動」を展開しています。

*4 CO₂等の温室効果ガスの排出について、まですべての排出量が減るよう削減努力を行い、どうしても排出される温室効果ガスについて、排出量に見合った温室効果ガスの削減活動に投資すること等により、排出される温室効果ガスを埋め合わせるという考え方。

*5 「とくしま協働の森づくり事業」の新たな展開として、徳島県と公益社団法人徳島森林づくり推進機構、企業が協定を締結し、100ha～300haと大規模でまとまった森林に活動拠点（Forest Activity Base）を設け、集中的に森づくりに取り組む事業。



植樹活動の様子

「FABとくしま森づくり事業」協定締結式

製薬企業として私たちにできること

私たち大塚グループは、企業理念のもと、事業を通じた社会課題の解決に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。当社においては、輸液のリーディングカンパニーとして、患者さんや医療従事者へ高品質の製品を安定的にお届けすること、

この事業を誠実に継続・推進していくことこそが企業の社会的責任を果たすことにつながると言えています。臨床栄養に特化した製薬会社として、当社だからこそできることを常に考え、実行していきます。

被災地への支援活動

輸液は、有事の際、初期治療で特に必要とされるものです。私たちは、輸液のリーディングカンパニーとして、地域貢献の理念のもと、積極的に災害復興支援、被災者支援などを行っています。災害時には、官公庁等からの要請に基づき、当社製品を役立てていただけるよう被災地へ輸液などの医療用医薬品や経口補水液の提供等を行っています。また、海外子会社である輸液事業会社でも、現地の災害復興支援活動を積極的に行っています。



被災地支援のため、経口補水液を車に積み込む社員

防災に向けた地域との「共助」の取り組み

災害時に備え、本社および全ての生産拠点において、地元自治体と防災協定を締結^{*1}しています。また、地域住民や関係者に、私たちのBCP（事業継続計画）の取り組みに関する説明会や施設見学会、合同津波避難訓練などを実施しています。地域住民や自治体との先進的な取り組みが評価され、自治体からの推薦を受け、内閣府が推進する地区防災計画の「平成27年度地区防災計画モデル地区」に「大塚製薬工場と周辺自主防災会」が選ばれました。そして、私たちの活動が、地元企業と地域自治会の連携による特徴的な取り組みとして、内閣府発行の「平成28年版防災白書」で紹介されました。

した。私たちは、これからもより一層地域と連携し、防災に向けた先進的な取り組みを強化していきます。

*1 2012年に徳島県鳴門市、2013年に徳島県板野郡松茂町、2019年に富山県射水市、2020年に北海道釧路市と防災協定を締結しています。



北海道釧路市の防災協定締結式



地域と連携した防災訓練



津波一時避難場所から見た放水体験会場



らせん階段で津波一時避難場所の屋上へ向かう参加者

TOPICS 地域と連携した夜間津波避難訓練

徳島県鳴門市は、南海トラフ巨大地震に伴う津波の影響を受ける可能性が高い地域であることから、地域住民の防災意識の向上と地域防災力の強化を図るために、行政・地域・企業・住民で災害リスクを共有し、相互の連携のもとで、非常時に必要な備えと一緒に考える活動を継続しています。2023年7月には、津波襲来を想定した初の夜間の避難訓練を実施しました。幼児から高齢者まで近隣住民ら約300人が参加しました。

自治体と健康で安心して暮らせる地域づくりのための包括連携協定の締結

2019年に徳島県鳴門市、2020年には北海道釧路市、兵庫県小野市、富山県射水市と包括連携協定を締結しました。これらの協定は、それぞれの市と当社が相互に協力して、栄養、食支援（フレイル^{*2}・低栄養・摂食嚥下・口腔ケア等）、排泄ケア、熱中症やかくれ脱水^{*3}の啓発などを行うことにより、市民の健康づくりの推進と地域医療を守り育む活動に寄与するとともに、地域包括ケアシステムの構築ならびに地域共生社会の実現に貢献することを目的にしています。当社は、輸液のリーディングカンパニーとして、予防から病院医療、リハビリ、そして在宅医療・介護にわたる臨床栄養製品を中心とした製品ラインアップと、きめ細やかな情報伝達を

通じて、医療に貢献してきました。超高齢社会において当社の取り組むべき方向性として、その専門性を生かし、地域包括ケアシステムの構築と運用に寄与すべく、自治体と連携してより一層の地域貢献を推進してまいります。



徳島県鳴門市との包括連携協定締結式

*2 フレイルとは、年齢を重ねたことで生じやすい衰え全般を指し、健康な状態と日常生活でサポートが必要な介護状態の中間を意味します。

*3 脱水症の一歩手前で症状がない脱水状態を指します。

経口補水療法に関する正しい知識の普及を目指して

経口補水療法は、脱水症における水・電解質補給の選択肢の一つとして、1940年代から研究が進められ、1971年の世界的なコレラ大流行を機に脱水症の治療法として注目されるようになり、近年では多くのガイドラインで推奨されています。私たちは、オーエスワン（OS-1）の有用性の訴求を通じ、「経口補水療法」に関する正しい知識の普及を目指して、医療従事者への情報提供活動や、消費者に適切な情報を届けてきました。

また、より身近なツールで情報提供するために、経口補水液オーエスワンLINE公式アカウントを開設し、脱水症・熱中症への注意喚起や、経口補水療法の情報発信等も行っています。



OS-1事業部員による経口補水療法に関する情報提供活動



オーエスワンLINE公式アカウント

一般の方の健康に役立つ情報提供への取り組み

当社では、一般の方向けに健康に役立つ情報発信に取り組んでいます。例えば、一般の方が食生活についてチェックできる「食欲に関するチェックリストCNAQ-J」をコーポレートサイトで公開しています。CNAQ-Jとは、8つの質問項目で簡単に高齢者の体重減少に関わる食欲を評価する検査方法で、「要介護高齢者の口腔・栄養管理のガイドライン2017」においても推奨されている方法です。私たちは今後も健康に役立つコンテンツの充実に努めてまいります。

食欲に関するチェックリスト

CNAQ-J <https://www.otsukakj.jp/healthcare/cnaq/>



Checkup 株式会社大塚製薬工場

食欲に関するチェックリスト CNAQ-J

日常の食生活についてチェックしてみましょう
不安がある場合は、かかりつけ医、管栄栄養士に相談してみましょう

最近、体重が減っていませんか？
食欲、食生活に不安はありませんか？
普段の食生活を振り返ってみましょう。

ここ1ヶ月間の食生活を思い出し、A～Hの質問に対し当てはまる番号の1つにチェックをつけてください。
すべて入力が終わったら、一番下のチェックボタンを押してください。

TOPICS 子どもたちの健康を願う「OTSUKA まんがヘルシー文庫」の活動

「OTSUKA まんがヘルシー文庫」は子どもたちの健康を願い、身体のしくみや健康について関心と理解を深めるために、毎年1巻発刊し、全国の小・中学校をはじめ特別支援学校や国公立図書館、海外日本人学校等に寄贈している大塚グループの社会文化活動です。1989年の創刊から30年以上にわたり、活動を継続しています。現在は、大塚ホールディングス株式会社や当社など大塚グループ数社からなるプロジェクトチームで制作し、日本医師会、日本学校保健会が監修、日本小児科医会の推薦を得て、大塚ホールディングス株式会社が発行しています。2015年か

らは、ヘルシー文庫の健康学習への活用について、直接、学校関係者と意見交換する「健康学習活用研修会」を開始し、学校現場の声を制作や展開に取り入れています。現在、文庫本は4シリーズ全33巻約300作品となり、そのうち110作品はWebサイトで公開しています。本サイトでは、子どもたちや学校関係者がよりヘルシー文庫を活用しやすいよう、検索性を高めたり、「学習指導要領対照表」を掲載するなどさまざまな提案をしています。今後も子どもたちの健康に資するこの活動を継続してまいります。



OTSUKA まんがヘルシー文庫
<https://www.otsuka.com/jp/comiclibrary/>



大塚グループの文化・スポーツへの貢献



2023年布ダベスト世界陸上男子20km競歩に出場し、12位（1時間19分02秒）でゴールした古賀友太



2024年2月に開催した、「コンディショニングのための SPECIAL SESSION in 徳島」



2024シーズンのトップチーム



大塚うず巻連の演舞

大塚製薬陸上競技部

1990年に創設された大塚製薬陸上競技部は、男女ともにオリンピックや世界選手権へ日本代表選手を送り出すなど活躍を続けています。練習や合宿の合間に、陸上教室を開催する等、企業スポーツを通じた地域貢献活動も行っています。

在籍人数

男子選手16名、女子選手9名（2024年2月末現在）

最近の主な成績

古賀 友太	2023年布ダベスト世界選手権 20km 競歩 日本代表
	2021年東京オリンピック 走幅跳 日本代表
津波 韶樹	2020年日本選手権 走幅跳 優勝 自己記録 8m23cm 日本歴代5位
上門 大祐	東京マラソン2020 2時間06分54秒 日本歴代6位（当時）

歴代オリンピック、世界選手権日本代表選手

犬伏 孝行	（2000オリンピック（男子マラソン））
細川 道隆	（2005世界選手権（男子マラソン））
渕瀬 真寿美 ^{※1}	（2012オリンピック、2009・2011・2013世界選手権（女子20km競歩））
伊藤 舞	（2016オリンピック、2011・2015世界選手権）
金丸 祐三 ^{※1}	（2012・2016オリンピック、2011・2013・2015・2017世界選手権（男子400m））
大室 秀樹	（2017世界選手権（男子110mH））
津波 韶樹	（2021オリンピック（男子走幅跳））
古賀 友太	（2023世界選手権（男子20km競歩））

* 1 現在は当社所属ではありません

徳島ヴォルティス

徳島ヴォルティスは、徳島県をホームタウンとする、四国初のJリーグ加盟プロサッカーチームであり、1955年に創設された大塚製薬サッカー部を前身としています。ヴォルティスとは、イタリア語で渦を意味する「VORTICE」から生まれた造語であり、豪快な鳴門の渦潮のように、パワー・スピード・結束力を兼ね備え、観客を興奮の渦に巻き込むチームを目指しています。当社は徳島ヴォルティスのオフィシャルスポンサーとして、その活動を応援しています。

大塚国際美術館



システィーナ・ホール

大塚グループは、1998年に大塚グループ創立75周年記念事業として設立した大塚国際美術館を通じて、地域の芸術・文化振興に努めています。約4kmにおよぶ鑑賞ルートには、西洋の古代壁画から現代絵画まで、原画に忠実に再現された1,000点余りの陶板名画を原寸大で展示し、日本に居ながらにして世界26カ国の美術館巡りが体験できます。



スクリュエニ礼拝堂



モネの「大睡蓮」

地域文化「阿波おどり」の継承

徳島県の企業として、郷土の伝統文化「阿波おどり」を受け継ぎ、社員有志で「大塚うず巻連」を結成。毎年、鳴門市内・徳島市内の阿波おどりに参加しています。^{※2} 鳴門市で最も古い歴史を持つ「うず巻連」の名を引き継いだ私たちは、地域文化の継承の一端を担っています。

* 2 現在は感染症拡大防止の観点から参加を見合わせています。

* 写真は大塚国際美術館の展示作品を撮影

よりよい労働環境を目指して

ダイバーシティ

私たちが目指すダイバーシティとは「多様な人財を採用し、個性を尊重しながら戦略的に人財を育成、活用することで、社員一人一人が活躍できる場を提供すること」です。多様な社員がそれぞれの個性を「強み」に変え、国籍、人種、年齢、性別、障がい、性的指向などにかかわらず、自分らしく「働きがい」のある組織を推進し、お互いを尊重しながら健全かつオープンな議論や挑戦ができるインクルーシブな企業文化を醸成することにより、創造性あふれる会社、社会から信頼される会社を目指してまいります。

ワーク・ライフ・バランス

当社は、社員のライフスタイルを尊重し、柔軟な働き方ができるよう、時間外労働時間の削減や在宅勤務制度の導入、育児休業、介護休業や育児勤務制度といった仕事と家庭の両立に配慮した制度の充実を図るなど、職場環境の整備に取り組んでいます。

より充実したワーク・ライフ・バランスの実現を目指して活動を継続する中、こうした各種取り組みが評価され、2018年に優良な「子育てサポート企業」として厚生労働大臣より「プラチナくるみん認定^{*1}」を取得しています。また、2019年には、特定非営利活動法人ファザーリング・ジャパンが主宰する「イクボス企業同盟^{*2}」に加盟し、「イクボス宣言」を表明しました。イクボス企業同盟への加盟を機に、これまでの取り組みを一層加速させ、性別・年齢等の属性やライフイベントにかかわらず、誰もが能力を最大限発揮できるようイクボス育成に取り組んでまいります。

健康経営の実践

当社は、全社員が生き生きと働くことができる職場環境を実現するとともに、健康に対する意識醸成を通じて健全な経営を推進し、社員とその家族の健康維持・増進に取り組んでいます。健康診断受診率100%達成、インフルエンザ予防接種の費用を派遣社員も含めて全額負担、健康動画制作・配信などの取り組みが評価され、2018年以降、毎年、健康経営優良法人に認定されています。

ピーンスターク保育園とくしま

大塚グループ社員の事業所内保育所「ピーンスターク保育園とくしま」は、創造性を育む独自性の高い保育が好評で、当初100名だった定員を2018年には210名に倍増。国内最大級の規模となりました。延長保育など急な事情にも対応できる体制を整えており、充実した育児サポートを行っています。私たちは、子育てをする社員が安心して仕事を継続できる環境を整えています。



家族の工場見学

会社全体で子育てを温かく見守り支えていく意識の醸成を目的とし、社員の家族を対象に工場見学会を実施しています。家族が働く職場を見学し、ランチタイムには社員食堂で一緒に食事を楽しんでいます。今後も社員と家族のコミュニケーションに役立つさまざまな取り組みを行ってまいります。



会社概要

会 社 名 … 株式会社大塚製薬工場

本 社 所 在 地 … 〒772-8601

徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115

東京事務所 … 〒101-0048

東京都千代田区神田司町2-9

設立年月日 … 1969年10月7日(創立1921年9月1日)

代表取締役社長 … 高木 修一

資 本 金 … 8,000万円

売 上 高 … 1,307億円(2023年)

従 業 員 数 … 2,318名(2023年12月31日現在)

事 業 内 容 … 臨床栄養製品を中心とした医薬品、医療機器、機能性食品等の製造、販売および輸出入



「くるみん」という愛称には、赤ちゃんが大事に包まれる「おくるみ」と「職場ぐるみ、会社ぐるみ」で仕事と子育ての両立支援に取り組もうという意味が込められています。プラチナくるみんマークには、マントと王冠をつけ、くるみんマーク取得企業よりも両立支援の取組が進んでいることを表現しています。

*1 「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定(くるみん認定)を受けた企業のうち、より高い水準の取り組みを行った企業が、一定の要件を満たすことにより、優良な「子育てサポート企業」として受けた特例認定です。

*2 イクボスとは、ともに働く部下やスタッフのワーク・ライフ・バランスを考え応援しながら、組織の業績も結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司(経営者・管理職)のことであり、イクボス企業同盟とは、「イクボス」の必要性を認識し、積極的に自社の管理職の意識改革を行って、新しい時代の理想的上司(イクボス)を育てていこうとする企業のネットワークのことです。



本社



東京事務所が入る
大塚製薬本社ビル

事業所一覧

●本社

〒772-8601

徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115

Tel.088-685-1151(代表)

●東京事務所

〒101-0048

東京都千代田区神田司町2-9

Tel.03-5217-5976

・営業本部 Tel.03-5217-5955

・OS-1事業部 Tel.03-5217-5951

●アメリカ事務所

10N. Martingale Road,
suite 400 Schaumburg,
Illinois 60173, USA

●研究所

・研究開発センター

・技術センター

・メディカルフーズ研究所

●工場

・鳴門工場

・松茂工場

・釧路工場

・富山工場

●支店

・札幌支店

・仙台支店

・高崎支店

・大宮支店

・東京支店

・横浜支店

・名古屋支店

・京滋北陸支店

・大阪支店

・広島支店

・徳島支店

・九州支店

コーポレートシンボル



コーポレートシンボルは大塚グループ企業理念をシンボリックに表したもので、大塚の「O」をモチーフにしています。「大きなO」は人々の頭上に広がる青空のイメージです。『開放感』、『自由』、『知性』、『未来』を表す Otsuka BLUE のグラデーションで深みと広がりを持たせています。Otsuka RED の「小さなO」はその根源となる大塚グループのエネルギーです。大きさの異なる二つの形がバランスを保ち、ソフトで親しみのある Otsuka の文字との組み合わせで「人間の健康で幸せな空間と、それを支える大塚グループのエネルギーッシュな活動」を表現しています。

主要な国内子会社

私たちは国内9社、海外15社の子会社・関連会社と協力しながら事業活動を展開しています。会社間の連携で生み出されるシナジー効果によって、患者さん

や医療従事者により良い革新的な製品をお届けすることを目指しています。国内で医療に関わる事業を行う5社をご紹介します。

大塚テクノ株式会社

人々の安全と安心に貢献する技術

汎用プラスチックからスーパーエンジニアリングプラスチックまで、あらゆる樹脂を「高い技術力」「クリーンな環境」「優れた品質」のもと、成形・加工を行っています。



〒771-0360
徳島県鳴門市瀬戸町明神板屋島120-1
Tel.088-683-7111

事業内容：医療用プラスチック容器部材
および精密成型品の製造販売

株式会社ジェイ・オー・ファーマ

医療の現場に安心と信頼を最新技術でサポート

プレフィルドシリンジ（薬液充填済み注射器）の専業メーカーとして、最新鋭の製造設備と厳格な品質管理、医療現場の声による継続的な製品改良により、常に最高の製品づくりを目指しています。



〒693-0032
島根県出雲市下古志町127-1
Tel.0853-24-8760

事業内容：プレフィルドシリンジ（薬液充填済み注射器）製造

イーエヌ大塚製薬株式会社

栄養を研究し、優れた製品と情報を提供することで、世界の人々の健康長寿に貢献します

医療用医薬品である経腸栄養剤「ラコール」「イノラス」や、かむ力が弱い方向けの食事「あいーと」など、革新的で創造性に富んだ幅広い製品を通じて、世界の人々の健康への貢献に取り組み、より有意義な製品・情報を速やかに提供できる「栄養ケアのセンター」を目指してまいります。



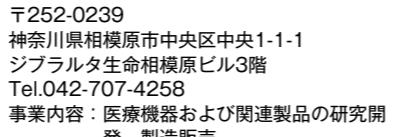
〒025-0312
岩手県花巻市二枚橋第4地割3-5
Tel.0198-26-5261

事業内容：経腸栄養剤、医療食、高齢者用食品、各種病者用食品などの研究・開発・製造・販売および輸出入

株式会社リリアム大塚

革新的排尿ケア製品の創出と新市場の創造

超音波技術を用いて、膀胱内尿量の「見える化」のための機器開発、ユニークなソリューションの提供を行うことで、超高齢社会の排尿ケアに貢献します。



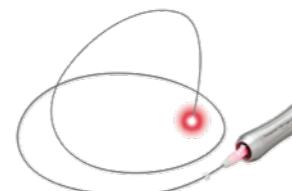
〒252-0239
神奈川県相模原市中央区中央1-1-1
ジブラルタ生命相模原ビル3階
Tel.042-707-4258

事業内容：医療機器および関連製品の研究開発、製造販売

大塚クリニカルソリューションズ株式会社

革新的かつ実用的な課題解決（ソリューション）を医療現場に提供することで、医療の質向上に貢献します

医療機器の製造業、製造販売業として、経鼻胃管先端位置確認システム「タムガイド」をはじめとする画期的な技術を活用した先端医療機器の製造開発に取り組みます。



〒904-2311
沖縄県うるま市勝連南風原5194-63
事業内容：医療機器および関連製品の製造販売

主要な海外子会社・関連会社



蘇州大塚製薬有限公司



大塚製薬インド株式会社



大塚製薬ベトナム株式会社



エジプト大塚製薬株式会社



大塚ジプト株式会社



PT ウィダトラバクティ



大塚エル・オブル製薬エジプト株式会社



PT 大塚インドネシア



ダイアトランズ大塚株式会社

ウェブサイト

コーポレートサイト

<https://www.otsukakj.jp/>



経口補水液「オーエスワン」

<https://www.os-1.jp/>



医療関係者向け情報サイト

https://www.otsukakj.jp/med_nutrition/



国内の医療関係者を対象に、医療用医薬品・医療機器を適正にご使用いただくための情報を提供しています。また、輸液・栄養関連の講演動画・資料や、輸液製剤の組成を確認するためのアプリ「輸液マイスター」など、臨床でご活用いただける会員限定コンテンツも掲載しています。



輸液マイスター

https://www.otsukakj.jp/med_nutrition/archives/application/



ジーエフオー（GFO）

<https://www.otsukakj.jp/gfo/>



オロナインH軟膏

<https://www.otsuka.co.jp/ohn/>



食・栄養支援クラウドサービス ぼけにゅー（Pocket Nutrition）

https://www.otsukakj.jp/med_saas/pock_nu/



在宅医療に携わる専門職向けのクラウドサービス。アセスメントを通じ、在宅療養生活の食・栄養課題の抽出・解決を支援、ケアの質向上を目指すサービスです。



大塚製薬陸上競技部サイト

<https://www.otsukakj.jp/track/>



沿革

● 医療用医薬品・医療機器・OTC 医薬品・研究用試薬・医薬部外品・口腔化粧品
● メディカルフーズ

1921年 大塚武三郎、
大塚製薬工業部を創立



● 局方炭酸マグネシウムの製造を開始（終売）

1936年 ● 局方プロムカリ（臭化カリウム）の製造を開始（終売）、
以後、多品目化に踏み切る

1940年 大塚製薬工業部を大塚製薬工場に改称

1946年 ● 塩化カルシウム注射液、リンゲル液などの製造許可を得る
● 各種注射液などの医薬品製造を開始

1947年 大塚正士、大塚武三郎より経営権を継承

1948年 ● ブドウ糖注射液の
製造許可を得る



1950年 ● 炭酸水素ナトリウム注射液「メイロン静注 7%」発売

1951年 ● ガラスバイアル入り輸液の発売

1952年 ● 抗結核薬「ヒドラジットオーツカ」発売（終売）

1953年 ● 大塚グループ初の OTC 医薬品（一般用医薬品）
「オロナイン軟膏」発売（終売）



1958年 ● 便秘薬「サラリン錠」発売（終売）

1960年 ● 必須アミノ酸注射液「パンアミン」、
高張必須アミノ酸注射液「パンアミン S」発売（終売）

1963年 ● 総合電解質輸液「KN 補液」シリーズを発売

1964年 ● 血流改善・体外循環灌流液「低分子デキストラント糖注」発売

1967年 ● 電解質輸液（乳酸リンゲル液）「ラクテック注」発売

1968年 ● 日本初となる
プラスチックボトル入り
輸液を製造開始



1969年 大塚製薬工場を法人化し、株式会社大塚製薬工場とする
大塚正士、代表取締役社長に就任

■原則として、現在の製品名で記載しています。
■製品写真は、原則として発売当時のものを掲載しています。
■当社の販売品目を掲載しています（大塚グループ他社の販売品目含む）。

1972年 ● 殺菌効果に優れたクロルヘキシジングルコン酸塩を配合した皮膚疾患・外傷治療薬「オロナイン H 軟膏」発売

1973年 インドネシアに PT ウィダトラバクトが設立

1974年 ● 二糖類・糖質補給剤「マルトス輸液 10%」発売
● 日本初のプラスチックアンプル入り注射剤を発売



1975年 大塚芳満、代表取締役社長に就任

1976年 刈路工場を開設

1977年 エジプトにアラブ大塚製薬（現 エジプト大塚製薬株式会社）が設立

1979年 ● 糖質・電解質輸液（5% マルトース加乳酸リンゲル液）
「ボタコール R 輸液」発売

1982年 ● ブドウ糖加アミノ酸注射液「プラスアミノ輸液」発売

1984年 ● 肝性脳症改善アミノ酸注射液「アミノレバシン点滴静注」発売

1985年 ● 薬剤溶解用食生注、蒸留水として、
100mL ビギーボトルを発売

1986年 ● 高カロリー輸液用 糖（GFX）・電解質液
「トリハレン 1号・2号輸液」発売（終売）

1988年 大塚明彦、代表取締役社長に就任

1988年 ● 総合アミノ酸製剤（10%）「アミバレン輸液」発売

● 経中心静脈栄養液用総合ビタミン剤
「オーツカ MV 注」発売

1990年 松茂工場を開設

1992年 ● 注射針付溶解剤「大塚生食注 TN」「大塚糖液 5% TN」発売

● 乾燥性皮膚治療薬「ウレバールプラスローション」発売（終売）

1993年 ● 消化態経腸栄養剤「ツインライン配合経腸用液」発売（終売）

1994年 ● 高カロリー輸液用 アミノ酸・糖・電解質液
「アミノトリバ 1号・2号輸液」発売（終売）

● 複合糖加電解質液（維持液 10.5% 糖加）
「トリフリード輸液」発売

大塚芳満、代表取締役社長に就任

1995年 ● 大塚マルチチャンバーバッグシステムの開発とそれを用いた世界初の抗生素質キット製剤の製造承認を取得



1996年 ● セファム系抗生素質製剤
「セファゾリン Na 点滴静注 1g バッグ オーツカ」発売



● 腎不全用アミノ酸注射液（7.2%）「キドミン輸液」発売

● 糖・電解質・アミノ酸液「アミノフリード輸液」発売（終売）

● 乾燥性皮膚治療薬「ウレバールプラスクリーム」発売

1998年 小松喬一、代表取締役社長に就任

1999年 ● 主成分を生薬に変更した便秘薬「新サラリン」発売

● 半消化態経腸栄養剤「ラコール配合経腸用液」発売（終売）

2000年 ● 電解質輸液（1% ブドウ糖加酢酸リンゲル液）
「フィジオ 140 輸液」発売

2001年 富山工場を開設

● 静注用脂肪乳剤「イントラリポス輸液」発売

● 世界保健機関（WHO）の提唱する
経口補水療法の考え方に基づいた
経口補水イオン飲料「オーエスワン」
発売

2002年 イーエヌ大塚製薬株式会社を設立

● 高カロリー輸液用 アミノ酸・糖・脂肪・電解質液
「ミキシッド L・H 輸液」発売

2003年 大塚 OPV（現 大塚製薬ベトナム株式会社）が設立

● 咽嚥・えん下困難な場合を考慮した経口補水イオン飲料
「オーエスワンゼリー」発売

● グルタミン、ファイバー、オリゴ糖を含有する
粉末清涼飲料水「ジーエフオー」発売

株式会社ジェイ・オー・ファーマを設立

2004年 ● 高カロリー輸液用 糖・電解質・
アミノ酸・総合ビタミン液
「ネオパレン 1号・2号輸液」
発売

● 注入針付溶解剤「大塚生食注 2 ポート」
「大塚糖液 2 ポート」発売

大塚一郎、代表取締役社長に就任

● 経口補水液「オーエスワンパウダー」消費者庁許可
特別用途食品 個別評価型病者用食品の表示許可取得

2005年 取り違え防止対策として、明瞭性、識別性に配慮した
ソフトバッグ製品のデザインヘリニューアル



2006年 ● えん下困難者の経口摂取開始時に適した、
えん下困難者用食品「エンゲリードアップゼリー」発売



● ビタミン B1・糖・
電解質・アミノ酸液
「ビーフリード輸液」発売



● 血液凝固阻止剤 ロック用ヘパリンナトリウム液
「ヘパリン Na ロック用 10・100 単位 /mL シリンジ
「オーツカ」5mL・10mL」発売



● 生理食塩液「生食注シリジン オーツカ」
5mL・10mL・20mL」発売

● 経口補水液「オーエスワンゼリー」厚生労働省許可
特別用途食品 個別評価型病者用食品の表示許可取得

2007年 蘇州大塚製薬有限公司を設立

● 寒天で固めたゼリータイプの濃厚流動食品
「ハイネゼリー」発売（終売）

2008年 ● 脳脊髄手術用洗浄・灌流液
「アートセレブ脳脊髄手術用洗浄灌流液」発売

大塚ホールディングス株式会社設立

● 主成分・基材を改良し、効果と使用感の向上を図った
乾燥性皮膚治療薬「ウレバールプラスローション 10」発売

2009年 ● 清涼飲料水（ゼリータイプ）「インナーパワー」発売

● 携帯等にも便利な粉末タイプの経口補水イオン飲料
「オーエスワンパウダー」発売

● 高カロリー輸液用 糖・電解質・
アミノ酸・総合ビタミン・
微量元素液
「エルネオバ 1号・2号輸液」
発売（終売）

● 水分量に配慮したゼリータイプの濃厚流動食品
「ハイネゼリーアクア」発売

2010年 ● 重炭酸リンゲル液「ピカネイト輸液」発売

大塚ホールディングス株式会社、
東京証券取引所市場第一部に上場

2011年 ● 補正用電解質液「リン酸 Na 補正液 0.5mmol/mL」発売

● 経腸栄養剤（経管・経口両用）「ラコール NF 配合経腸用液」、
消化態経腸栄養剤「ツインライン NF 配合経腸用液」発売

ニュージーランドにダイアトランズ大塚株式会社を設立

2012年 ● 経口補水液「オーエスワンパウダー」消費者庁許可
特別用途食品 個別評価型病者用食品の表示許可取得

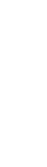
2013年 インドの輸液事業会社（現 大塚製薬インド株式会社）に
資本参加

● 代用血漿剤「ボルベン輸液 6%」発売

2014年 ● えん下困難者用食品「エンゲリードアップゼリー」
「エンゲリードグレープゼリー」消費者庁許可 特別用途
食品えん下困難者用食品（許可基準 I）の表示許可取得



● 胃酸の作用により液体からゲル状に性状変化する
濃厚流動食品「ハイネイゲル」発売（終売）



● 外用殺菌消毒剤「ボビドンヨード液 10% 消毒用
アブリケータ オーツカ」10mL・20mL」発売



● 経腸栄養剤「ラコール NF 配合経腸用半固体剤」発売

小笠原信一、代表取締役社長に就任

エジプトの現地製薬会社（現 大塚エル・オブル製
エジプト株式会社）を子会社化

私たちは、 脱水症で亡くなる人を ゼロにしたい。



脱水症。人は、水が足りないと病気になる。
体の中には、Na⁺やK⁺などの電解質を含んだ
細胞や血液で働く大切な水があるからです。

私たちは長い間、体の中の水を見つめ、
脱水症とたかうための製品、
輸液やOS-Iを提供してきました。

しかし、脱水や経口補水液という言葉が広まっても
重症化してしまう人がいる。命を落とす人がいる。
もっと、医療や介護に携わる方々の力になれるように。

わたしたちの使命。脱水症を正しく伝えること。
輸液療法と経口補水療法に適切な製品を
提供しつづけること、絶やさないこと。

体の中の水を守る。大塚製薬工場



株式会社大塚製薬工場



ミックス
責任ある木質資源を
使用した紙
FSC® C100230

